



AUE News



2013年6月1日

第 62 号

編集・発行

愛知教育大学広報チーム

TEL 0566-26-2738

FAX 0566-26-2500

目 次

- 行事予定(6月1-15日)
- トピックス
 - ・附属名古屋小学校で作品展
 - ・教大協が理事会開催
 - ・子どもまつり
 - ・香港教育学院事務職員が本学訪問
 - ・大学祭
 - ・大学祭で「ろくいち新聞」発行
 - ・天文台第82回一般公開
 - ・教大協東海地区大会評議員会を本学で開催
 - ・本学と愛知県内教育関係者が懇談会
- ・附属図書館で『種』プロジェクト
- ・図書館ブックフェア
- ・学生寮で防災防火訓練
- 愛教人インタビュー
 - ・渡邊幹男教授がナガバノイシチモソウの新種発見
- お知らせ・報告・投稿
 - ・2012年度卒業・修了生の進路状況
 - ・大学見学に県立一色高校・市立緑高校・県立新城東高校、同安城南高校が来訪
 - ・催しもの案内

行事予定(6/1-15)

- 3日(月) 情報システム委員会(9:30～ 第三会議室)
開学記念懇談会・創基140周年(11:30～ 第一会議室)
評価委員会(15:00～ 学長室)
- 4日(火) 役員部局長会議(13:00～ 学長室)
- 5日(水) 学生支援委員会(13:30～ 第五会議室)
- 11日(火) 役員会(9:00～ 学長室)
- 12日(水) 教職大学院運営協議会(10:30～ 第五会議室)
代議員会(13:30～ 第五会議室)
教育研究評議会(代議員会終了後、第五会議室)

トピックス

附属名古屋小学校で作品展(5/2、7)



1、2年生は校庭で、3年生以上は東山動植物園で一斉写生会を行い、そのときの作品を展示したものです。会場の体育館には、遊具や砂場(1、2年生)、動物(3、4年生)そして風景(5、6年生)の主題ごとに作品が展示されていました。

細かなところまでよく観て、配色もバランスを考えて、良くできています。たとえば、3年女児の「キリンの絵」は、キリンが長い首をぐっと傾けて地面のものを口にしようとしている姿を正面からとらえた構図。首の太さ、こちらを見ている目、背中のまだら模様

5月2日(木)、7日(火)の2回に分けて、附属名古屋小学校で作品展が行われました。4月下旬に



など、ダイナミックかつ繊細な出来栄え。クレパスの使い方も上手い。他の作品も、一緒に回っていただいた竹井史校長（美術教育講座教授）が絵の専門家として「よくできている」と言うほどでした。



同校の先生方は、5月28日（火）開催の教育研究発表会が控えている中、この作品の指導・助言に当たっていただき、感謝申し上げます。「親子鑑賞会」で1年生の親子組にも出会いましたが、入学式の祝辞のときに「ヒゲじい」と自己紹介した子たちです。とてもいい顔でした。

（総務担当理事 折出健二）

教大協が理事会開催(5/10)

5月10日（金）、東京・学士会館で今年度第一回の日本教育大学協会（教大協）理事会が開催され、全国8地区の地区会長（理事）が出席しました（東海地区は松田が地区会長として出席）。文部科学省から高口初等中等教育局教職員課長、出口初等中等教育局参事官付学校運営支援企画官、池田高等教育局大学振興課長、鍋島同教員養成企画室長ほか多数の出席がありました。

村松教大協会長のあいさつでは、2月理事会後の状況の変化（ミッションの再定義の遅れなど）を踏まえ、今後の見通し・教育改革の動向など共通認識を深めることが大事との認識が示されました。続いて、高口、出口、池田各氏の順で文科省からの話と質疑応答を行いました（以上が13:30～15:40）。高口氏の話では、資料に基づき自民党の教育再生本部では、3部会を設置して検討が続いている学制、入試、人材確保、グローバル人材育成の紹介があり、その後「教員の資質能力向上に係る先導的取り組み事業」「幼稚園免許状・保育士資格取得特例」「大学における教員の現職教育への支援」などのプロジェクトが紹介されました。出口氏の話では、「コミュニティ・スクール」「学校評価」などへの大学・学部の協力要請があり、池田氏は、論点を①教育改革の全体像、②ミッションの再定義と教員養成改革の2点に絞って、紹介されました。特にミッションの再定義では、遅れている事のお詫びとともに、5月下旬から文科省が原案を提示した後、順次2回目の懇談を始めるとの話でした。



文科省関係者退席後は、教大協の決算・予算や人事などが審議され、今年度の活動計画などを確認し、午後4時半に会議を終えました。

（学長 松田正久）

第44回子どもまつり(5/12)

「第44回子どもまつり」が5月12日（日）、今年も本学構内で開催され、905人の子どもたちが来場、138人の学生が参加し、ゲームやイベントを通して一緒に楽しみました。



10日（金）午後から前日の11日（土）の夜まで雨が降りましたが、当日は少し暖かな五月晴れの絶好の天候となりました。午前8時30分には母親と子ども2人の親子連れが一番乗りで到着し、9時の受付開始時には開場を待ちわびる大勢の親子が行列をつくり、受付でもらったパンフレットを首から提げて、開会式会場の第一体育館へ向かいました。午前9時40分からの開会式には、子どもまつり実行委員の学生が、落とし物について、また迷子になった際の注意を説明し、開幕と同時に、子どもたちと学生が小グループになって、それぞれお目当ての会場に向かいました。

第一共通棟の1、2階の教室、第一・第二体育館、中庭などでは、学生たちが子どもまつりの

ために考えたモザイクアートによる動物の絵作りや各教室内では海底探検ミニゲーム、人形劇、キャンドル作り等、工夫を凝らした企画が盛りだくさん。第一体育館での閉会式ではプレゼント抽選会などが繰り広げられました。子どもたちは、学生のお兄さんやお姉さんたちの後について歩き「もっともっと遊びたい」「遊べて楽しかった」などと話し、閉会式終了後も子どもまつりを最後まで満喫し、実行委員が作った飾りや段ボールに書いた「子まキャラ」の動物の絵をもらい嬉しそうに帰っていきました。



(学生支援課 課外教育担当係長 亀山重人)

香港教育学院事務職員が本学訪問(5/13)

5月13日(月)、協定校である香港教育学院のインターナショナルオフィスから事務職員2人(Vicky CHAN氏, Doris TANG氏)が本学を訪問、本学国際交流センター教職員との意見交換会と学内視察、松田正久学長への表敬訪問を行いました。



香港教育学院では、国際化推進の方針の下、多岐にわたる国際交流プログラムが実施されているとのこと、意見交換会では協定校学生を対象とした新設プログラムについて紹介が行われました。また、本学との交流についても、より多くの学生への国際経験の機会提供を目指し、柔軟性のある協力体制づくりを目指していく旨を確認しました。

意見交換会終了後には、国際交流会館(留学生寮)を中心とした学内視察を実施。担当者から設備や費用などについて詳しい説明を受けると、熱心にメモを取り、カメラで部屋の様子を撮影していました。

学長への表敬訪問では、香港教育学院の教員養成体系や就職状況などのほか、香港における言語状況や移民政策も話題に上り、終始和やかな雰囲気の中で懇談が行われました。

香港教育学院は、現在、本学を含め約100の海外協定大学を持ち、積極的な国際交流を展開しています。英語による授業も活発に行われているので、英語圏への交換留学を考えている方は、香港教育学院も選択肢に加えてみてはいかがでしょうか。香港教育学院の詳しい情報や交換留学については、国際交流センター(0566-26-2179)にお問い合わせ下さい。

(教育創造開発機構運営課 国際交流センター 宮内春菜)

大学祭(5/15-19)

「第44回愛知教育大学大学祭」が5月15日(水)～19日(日)に、本学キャンパスで開催され、多くの学生や一般参加者でにぎわいました。

今年のテーマは「虹～君だけの色を見つけよう～」。平日の15～17日はスポーツ祭で第一・第二体育館、附属屋2階、グラウンドなどを会場に、バドミントンやバスケットボール、バレーボール、卓球、ミニサッカー、ソフトボール、ハンドボール、ドッチボールの8種目が行われ、各チームが声を掛け合い、力を合わせて競い合い、皆、スポ祭を満喫した様子でした。



週末の19、20日は大学祭のクライマックス。クラブ・サークル、選修・専攻による模擬店が構内各所に出店され、たこ焼きや焼き鳥、かき氷、ジュースなどを販売。学生は店舗の装飾やメニューに工夫を凝らして、来場者を呼び込む元気な声で盛り上げました。教室では木材おもちゃ展示や漫画展、お化け屋敷、落語・漫才、手品、アカペラなどが披露され、教員による研究紹介、国際交流活動の紹介や、附属図書館前の野外ステージではバンド演奏やお笑い芸人による舞台も。



徐々に少なくなってきました。大学祭実行委員会によると、週末2 日間の来場者は例年同様の約4000 人。羽田野真生委員長は「今年もほぼ天候にも恵まれて、多くの方に参加してもらえました。来年の学祭もいろいろ楽しい企画を計画し、今年以上にもっと盛り上げていきたいと思います。」と満足そうでした。

(学生支援課 課外教育担当係長 亀山重人)

また、松田正久学長が審査員として参加した模擬店コンテスト、夜祭ではグラウンドの特設ステージでクイズ・ビンゴ大会やトーチトワリング、講堂ではストリートダンス発表、大学会館では演劇、茶道と多彩な企画が繰り広げられました。

18日までは天気が非常に良く、まるで夏日のように蒸し暑い日が続きましたが、19日の最終日の午後からは一転、雨が降り始め、急に寒くなるとともに客足も



大学祭で「ろくいち新聞」発行(5/18、19)

本学大学祭開催中の5月18日(土)、6年一貫教員養成コース7期生の7人が新聞を製作しました。3年前期の集中講義で、中日新聞社との連携でNIE(教育に新聞を)について勉強したので、その総決算としての活動です。表面は大学祭の様子を取材した記事で、裏面は教員の修士



レベル化について書きました。18日に取材をして、その原稿を持って中日新聞社へ行き、19日(日)に大学祭会場で来場者にでき上がった新聞を配布しました。当日の取材と編集には時間がかかりましたが、とても良い経験になりました。

今回の新聞作りでは記事を書く以上の体験をしました。6年一貫教員養成コースでは昨年まで大学祭での新聞作りをしていましたが、今年は新聞を作成する予定はありませんでした。ところが中日新聞社のNIE事務局の方に、今年も作ってみてはどうかと声をかけていただき、急きょ作成することになりました。その決定から、18日まで日にちがなく、急いで役割分担をして記事を書きました。時間的な余裕がなかったため、かえって緊迫感が高まり、新聞の編集作業には中日新聞社のNIE事務局の方にかなりの力をお借りしました。そのお陰で貴重な経験をしたこともあって、とても良い新聞ができました。

協力してくださったNIE事務局の方はもちろん、取材に協力していただいた皆様に感謝したいと思います。

(6年一貫コース7期生 中等・理科専攻4年 平川雄規)

天文台第82回一般公開(5/18)

本学天文台で第82回一般公開が5月18日(土)に開催されました。大学祭期間中のため、午後2時から観望会や3D宇宙映像の上映会、天文ミニ講座、夜の観望会と3D上映会と盛りだくさんの内容で、学生や一般の計42人が参加しました。

午後の観望会は、40cm望遠鏡でシリウス、小型の8cm屈折望遠鏡で太陽を観察。シリウスの観察では「キラキラしてきれい」と声が上がり、太陽の観察では黒点も多く見られ、参加者は観望を楽しんだ様子。3D上映会は4年生の解説で、宇宙の旅を疑似体験。ミニ講座は「隕石の衝突」をテーマに、澤武文特別教授(理科教育)が、今年2月のロシアでの隕石落下の様子や衝撃波の影



響を模型や映像を使って解説。隕石の種類が3種類に分類されること、隕石はかつては巨大な天体が破壊されたものが元になっていること、世界最大・日本最大の隕石や隕石の衝突でクレーターが形成されることなども、映像を交えて分かりやすく紹介しました。



夜の観望会開始時は全面曇り空でしたが、午後8時ごろからは雲が切れ、半月の月と土星が観察できるようになり、参加者は可愛い輪を持つ土星の姿を楽しんでいました。

教大協東海地区大会評議員会を本学で開催(5/20)

2013年度日本教育大学協会東海地区会評議員会が5月20日(月)午後、本学第三会議室で開催され、本学の松田正久学長、岩崎公弥理事(教育担当)、白石薫二理事(財務・施設担当)・事務局長、宮川秀俊附属学校部長、静岡大学の梅澤収教育学部長、岐阜大学の早川万年教育学部長、三重大学の藤田達生教育学部長はじめ、各大学の教授、附属学校園の校長、副校長、副園長ら計17人が出席しました。



冒頭、地区会長でもある松田学長があいさつし、議長として議事を進行。参加者の自己紹介に続いて、2012年度の事業報告、決算報告を了承し、2012年度地区会評議員会議事要録、2013年度予算案、地区会の運営に関する申し合わせの一部改正の3件を協議題として論議。いずれも原案どおり承認しました。

続いて、意見交換に移り、松田学長が教大協理事会の内容を報告。各大学の出席者からはミッションの再定義を巡る動向、教員需要に影響する定年退職教員の再任用問題、教員養成に関する国のグランドデザインと各大学の取り組み、教育学部の改革動向などについて活発な質疑応答があり、熱のこもった議論、情報交換が行われました。

最後に、次回会場を岐阜大学とすることを確認し、約2時間の会議を終了しました。

(法人企画部長 中原道文)

本学と愛知県内教育関係者が懇談会(5/22)

本学と愛知県内教育関係者との懇談会が5月22日(水)、KKRホテル名古屋(名古屋市中区)で開催され、石井悦雄愛知県都市教育長協議会会長、内田浩泉町村教育長協議会副会長、稲垣寿県教育委員会義務教育課長や山内敏之名古屋市教育委員会教職員課長、各小中学校校長会の会長、副会長ら関係者18人と本学からは松田正久学長、折出健二理事、岩崎公弥理事、都築繁幸理事、白石薫二理事はじめ4学系長ら22人が出席しました。

松田学長が「昨年度は進学者等を除く学部全体就職率が92.3%と(2004年の)法人化後最高で、この間、教育実習の強化などに取り組んだが、志願者が減少、政権交代により教育状況も大きく替わる可能性がある。本日は皆さんから忌憚のないご意見をお聴きしたい」とあいさつ。続いて教育関係者を代表して稲垣義務教育課長が「愛教大の先生、学生の地域貢献事業への参加に感謝したい。10年で教員の1/3が入れ替わる異常事態に加えて、いじめ、体罰などが社会的問題となり、保護者や地域から信頼される教育が求められている。今後も優秀な教員の養成に尽力をお願いしたい」と述べました。



会は折出理事の司会で進められ、岩崎、都築理事が県内教員養成高度化支援システム構築事業や、地域連携センター、キャリア支援センターの本学の取り組みを説明。意見交換では教員養成のあり方、教職大学院などをテーマに行われました。出席者からは「他大学の学生指導の内容を

把握しているか」「志願者減少の理由とともに、魅力ある大学とは何か分析すべき」「教員の質として教科の専門性は必要だが、それ以上にやる気と教育愛が大切。教育実習に民間の知恵を活かすなど教員養成で何が足りないのかが問われている」「学生がさまざまな体験を積み上で附属



学校をもっと活用すべき」「現職教員が教職大学院で学んだことを再び現場で生かせるような教育内容に期待している」などの質問や、本学への要望や意見が相次ぎ、理事が現状と、今後の方針を説明しました。

最後に松田学長が「本学が養成する教員像を明確に打ち出し、地域との連携をさらに深めていきたい。今後ともご指導をよろしくお願いします」と約1時間半の懇談会を締めくくりました。

(法人企画部長 中原道文)

附属図書館で『種』プロジェクト(5/27)

附属図書館で、エコキャンパス事業の一環として、図書館『種』プロジェクトが利用者向けに5月27日(月)からスタートしました。

プロジェクトは、図書館での本の「貸出・返却」という役割になぞらえて、図書館利用者に花の種の「貸出」を行い、大学内もしくは自宅で栽培し、収穫後の種を図書館に「返却」してもらい、自然や植物、エコロジーへの興味関心を深めていける、利用者参加型の取組・企画です。

また、図書館で所蔵するたくさんの資料を有効に活用し、環境教育の拠点となるように進めていくためにも、図書館内でキーワードを基に、資料を集めて開架している特別コーナーの『Book ナビ』にて「種・植物・環境」をキーワードに、関連資料の展示・貸出も行っています。

施設課で行っている大学『花』プロジェクトと共同で、図書館前に花壇も整備する予定です。種を自宅で育てるのが困難な利用者は、この花壇を利用することも可能です。

種は1人3袋まで、返却期限は平成26年1月10日(金)とし、学生をはじめ、教職員や学外利用者にも種の貸出を行っています。ぜひ期間中に、より多くの方のご参加をお願いします。

今後は、図書館アイ♥スペースを利用した、エコキャンパス事業の展示会やミニ講習会なども予定しています。

※種の種類は、ひまわり、アサガオ、マリーゴールド、サルビア、パンジー、コスモス、ビオラ、ケイトウ、ハーブなどです。

(情報図書課 資料受入担当 沓名正樹)



図書館ブックフェア(5/27-31)

5月27日(月)から31日(金)まで、附属図書館アイ♥スペースで、「図書館ブックフェア～選書会～」を開催しました。

6書店(刈谷日新堂、紀伊國屋書店、三省堂書店、愛知教育大学生協、丸善、みうら書店)がそれぞれ大学生にお薦めする本を展示し、学生や教職員らに自由に見てもらい、購入を希望する本があれば挟んであるしおりにシールを1枚張り、選書数の上位の本から購入するもので、今回初めてのイベントでした。



普段、図書館に配架する本は図書館職員が選書したものや、教員が学生用に推薦する本や授業必読の指定図書、学生からのリクエスト等を購入してそろえています。学生たちの意見を取り



入れた新しい選書の試みとして企画しました。

展示本は専攻に沿った内容の本や時事関係、就職活動、論文手法などをテーマに、新刊学術本など約 600 冊を用意、また丸善が提供する電子書籍“e Book”のデモ展示も行いました。

参加学生が回答したアンケートには「読みたいと思う本が増えた」「さまざまなジャンルの本に触れることができた」などの意見があり、学術書との出会いを楽しんでもらえる機会にもなったようです。

集計後、購入決定した本は図書館で展示する予定です。参加者に書いてもらった、選んだ理由のコメントを本と一緒に展示しますので、楽しみにしてください。

秋には毎年恒例となりました選書ツアーも行います。こちらもぜひ多くの学生にご参加いただけることを期待しています。

(情報図書課 資料受入担当 岡田智子)

学生寮で防災防火訓練(5/29)

5月29日(水)、梅雨の走りの中、学生寮の防災防火訓練が行われ、寮生のうち約2割に当たる20人余が参加しました。

訓練は毎年この時期に実施されているもので、今年は、当地区において直下型地震が発生したとの想定で、対応訓練および避難訓練を行いました。各フロアの責任者による避難者の確認、寮長・副寮長への状況報告



などが本番さながらに進められました。寮長が館内アナウンスを使い、副寮長と連携し、状況報告は、ほぼリアルタイムに安否確認ができました。



須賀達也学生支援課長の講評の後、一昨年度新築した棟と昨年度改修した棟の避難ばしごの使用説明とデモンストレーションが寮長からあり、避難方法を初めて目にする寮生も多く、驚きの声上がる中、実際にはしごでの上り下りも体験し、訓練を終りました。

(学生支援課 厚生係 前川静香)

愛教人インタビュー

渡邊幹男教授がナガバノイシモチソウの新種発見

環境省が絶滅危惧種に指定している食虫植物「ナガバノイシモチソウ」のうち、豊明市など東海地方だけに自生する赤い花を咲かせるタイプが、日本固有の新種であることを、本学の渡邊幹男教授(理科教育)のグループが突き止め、3月の日本植物分類学会で発表。学名には、自生地「トヨタケ」を冠して *Drosera toyoakensis* M. Watanabe (ドラセラ トヨタケンシス エムワタナベ) と命名。世界的な発見をされた渡邊教授に研究の経緯と手応えなどを伺いました。



＊

—ナガバノイシモチソウの研究はいつから、どういうきっかけで始められたのですか。

2000年10月に、豊明市の小学校の元校長先生から、個体数が減っているのを調べてほしいと

相談があり、2001 年に調査と保護活動を開始。その小学校で学生が教育実習していたこともあって、学生も卒論で調査に参加して、今は教員になっています。

—そもそも、ナガバノイシモチソウはどのような植物ですか。

食虫植物として、よく知られていますが、一般的には白花で、赤花は珍しいです。大正 9 (1920) 年の愛知県の調査でも、その希少性が指摘されていましたが、昭和 30 年代 (1955~1964) には地下水汚染で自生地が壊滅、同 42 (1967) 年には新たな自生地が発見されて県が天然記念物に。その後、セイタカアワダチソウの繁茂で再び壊滅の危機にさらされた時、地域ぐるみの保全が始まりましたが、株を増やそうと 1970 年代に組織培養したクローンを移植したところ、多弁化した奇形個体が出現、種ができない株が続出してしまいました。その後始末で、1 株ずつ遺伝子を調べ、クローン由来個体を間引く地道な作業が現在も続いています。豊明市では 240 m² にフェンスを張り、自生地を保護して、2000 株まで増えました。毎年夏には一般公開し、子どもが自然を学ぶ教材にしています。



—遺伝子解析など調査はとても手間のかかるものですね。

年間 300~400 株。学生も一緒になって行っています。竹串でひと株ずつ印を付けて、埋蔵種子 (大きさ約 0.5mm) を掘り起こして調べるの繰り返しで、最初は大変でした。試行錯誤でしたが、最近の方法も安定してきました。4 月中旬には毎週発芽の状態を調べに自生地に、開花する 6 月下旬からは月に 5, 6 回。8 月には一般公開して、10 月まで調査が続きます。

—豊明・豊橋の品種が日本固有の新種というは、どうして分かったのですか。

ナガバナイシモチソウは、繊毛から放つ甘酸っぱい臭いで、蝶などの昆虫を引き寄せます。日本が北限で栃木県などでも見られますが、白い花。赤は豊明と豊橋です。そもそも 200 年以上前にインドで発見されドラセラインディアと名前が付けられました。昨年 12 月、カンボジアで本学と九州大学の研究グループが、赤花があるかどうか調査しましたが、あちらは多年草で、日本は一年草、遺伝子解析でも違うものでした。種子の表面の模様、花の出る角度なども異なりました。



—新種の学名に地元の地名を入れた思いを聞かせてください。

保護に長年熱心に取り組んできた豊明の皆さんに敬意を表して。たまたま地元出身の学生が卒論でやっていますが、楽しんでいるようです。地元の教材として先生が取り上げれば、子どもが興味を持ち、親も興味を持ちますし、先生にとっても学び続ける教員像ができます。生物多様性や環境を考える上で、地域に根差した教材を開発するノウハウを作ることで、ものを大事にする「道徳活動」にもなり、専門的な研究としては「教科学」にもつながります。

——石二鳥、三鳥の効果があるんですね。ところで、先生ご自身と生物・植物とのかかわりはいつからですか。

出身は栃木県で、子どものころには田んぼでザリガニ捕りをしたり、山でカブトムシを捕ったりして、自然に親しんで育ちました。高校時代には生物の研究をしていました。教員になれば比較的自由があって、好きなものを研究できると思って、千葉大学へ進学し、タケやササの分子レベルの研究で学位を取得。縁あって、1994 年に教員として本学へ。来年で 20 年になります。

—理科に限らず、多くの学生が自分の好きなことを研究したいと思っているはずですが、学生にアドバイスをお願いします。

「人が知らないもの (こと) を知りたい! という思い」「これが違う! という勘」が大切。

—最後にお聞きします。トレードマークのバンダナはいつからですか。コレクションや学生さんからのプレゼントもあるんですか。

大学生の時から。集中すると汗かきなもので。学生からの贈り物でも、コレクションでもない



のですが。講演などの時は、さすがに外しますが、無いと何だか物足りないですね（笑）。
（インタビュー：秘書広報課 小林則子）

＊

研究に、学生の指導に、地域貢献にと連日パワフルに行動する渡邊先生。今回の研究については、7月16日（月）に開催の「アカデミックカフェ」で講演していただく予定です。アカデミックカフェの案内は、追って、本紙面や本学ホームページなどで発信しますのでご覧ください。

お知らせ・報告・投稿

2012年度卒業・修了生の進路状況（報告）

2013年3月（22日卒業式）に教育学部を卒業した学生908人と2011年9月に卒業した15人を加えた923人の進路先の状況が判明しました。キャリア支援課が、この時期卒業生の進路先について葉書および電話による照会をした結果です。このデータによれば、正規教員就職者は361人（39.1%）と臨時教員189人（20.5%）で教員全体で550人（59.6%）、企業等152人（16.5%）と官公庁77人（8.3%）の合計で一般就職229人（24.8%）、進学79人（8.6%）であった。全体の就職者数は、779人、進学者を除く就職率92.3%で法人化後最高となりました。「その他」は65人で7.0%となり、これは10年間で最少。以下に教員養成課程及び現代学芸課程別の表を載せます。教員養成課程の全体就職率（進学者除く）は93.5%、教員就職率は73.6%で2.4ポイント増、現代学芸課程では全体就職率（進学者除く）は88.7%で4.2ポイント増加しました。

また、大学院課程では、教員就職率は教育学研究科52.3%、教職大学院97.4%で、教育学研究科で2.5%低下、教職大学院ではほぼ同率でした。一般就職を含む就職率（進学者除く）はそれぞれ83.6%と100%でした。
（キャリア支援課）

	正規 教員	臨時 教員	教員 合計	官公庁	企業等	一般就 職合計	進学	その他 ＊	合計
教員養成課程	327 (291)	176 (182)	503 (473)	44 (42)	43 (40)	87 (82)	52 (68)	41 (43)	683 (666)
現代学芸課程	34 (32)	13 (16)	47 (48)	33 (23)	109 (110)	142 (133)	27 (30)	24 (33)	240 (244)
教育学部合計	361 (323)	189 (198)	550 (521)	77 (65)	152 (150)	229 (215)	79 (98)	65 (76)	923 (910)
教育学研究科	49 (38)	18 (31)	67 (69)	8 (11)	18 (16)	26 (27)	6 (4)	29 (26)	128 (126)
教職大学院	30 (29)	7 (6)	37 (35)	1 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (1)	38 (36)
特別専攻科	14 (12)	5 (7)	19 (19)	1 (1)	0 (1)	0 (1)	0 (0)	2 (4)	22 (25)

（カッコ内は、2011年度）

＊「その他」には、専門学校等への入学者、一時的な職に就いた者、帰国大学院修了生などを含みます。

大学見学に県立一色高校・市立緑高校・県立新城東高校・安城南高校が来訪（報告）

本学では、受験生向けに高校からの大学見学を受け付けています。5月は、8日（水）に愛知県立一色高校、9日（木）に名古屋市立緑高校、23日（木）に愛知県立豊田東高校、30日（木）に愛知県立新城東高校、同安城南高校の生徒が訪れ、大学の概要説明を受け、第一共通棟や生協、ガラス工房、附属図書館などを見学しました。



大学説明では、大学紹介DVDを見た後、質疑応答が行われ、授業の選択の方法、教員採用試験の合格状況、国際交流、クラブ・サークルなどについて生徒から質問があり、教務課やキャリア支援課などの職員が答えました。



緑高校の見学では、数学選修4年の3人の学生が模擬授業を行い、高校との授業の内容の違いなどを説明。生徒たちは、数学の理論を折り紙などで図形づくりしながら、楽しく学んでいました。

施設見学では、各校ともガラス工房で佐々木雅浩准教授が制作する工程の一部を見学。高温の窯で溶かされたガラスが、空気で冷まされて瞬時に固まる様に、驚きの声を上げていました。共通棟で教室のドアの小窓から授業の様

を垣間見たり、学食でのランチを体験するなど、ちょっぴりキャンパスライフを楽しんだ様子でした。

催しもの案内

◆愛知教育大学天文台 第83回一般公開 子どものための講座と観望会

6月15日(土) 18:00~20:30 入場無料、事前申し込み不要

自然科学棟5階・地学538教室、屋上・天文台など 雨天時も観望会以外は開催

18:00~19:00 子どものための天文ミニ講座「空を廻る太陽や星々・太陽と月、仲良くして～『星博士』をめざして2～」

講師：澤武文特別教授

19:00~20:30 観望会「土星と月を見よう！」

19:00～ 「3D宇宙の旅」上映会

問い合わせ：理科教育講座 天文学研究室 TEL 0566・26・2624

天文台ホームページ

<http://www.step.aichi-edu.ac.jp/astronomy.html>

◆2013年度 第1回環境ミーティング

6月17日(月) 12:25~13:15

第一共通棟1階 自習室A

対象：本学の環境に関心のある学生、教職員

問い合わせ：施設課 鹿嶋さん TEL 0566・26・2152

編集後記

生物が苦手な私ですが、渡邊幹男先生のナガバノイチモチソウのお話には引き込まれました。植物から自然環境を考えるきっかけになり、地域ならではの教材になったり、教員の生涯の学びや、環境を守ることで道德教育にもなると伺って、小さな花から大きな学びの機会につながっていく展開に大いに感心しました。その勢いで図書館が提案する「種プロジェクト」にも参加。自宅で育てる自信がないので、事務棟のベランダに借りたコンテナを設置して栽培開始。間もなく発芽と思いきや、土には白カビが“発芽”（泣）。気を取り直して土づくりからやり直して、再スタートをきるところです。秋には種を“返却”が、目標ですが、果たして…。 (K)

投稿のお願い

学内外の出来事(教育・研究・地域連携・国際交流・学内事業など)に関するニュースの提供をお待ちしております。

メール：kouhou@m.auecc.aichi-edu.ac.jp 編集責任者：総務担当理事 折出 健二